

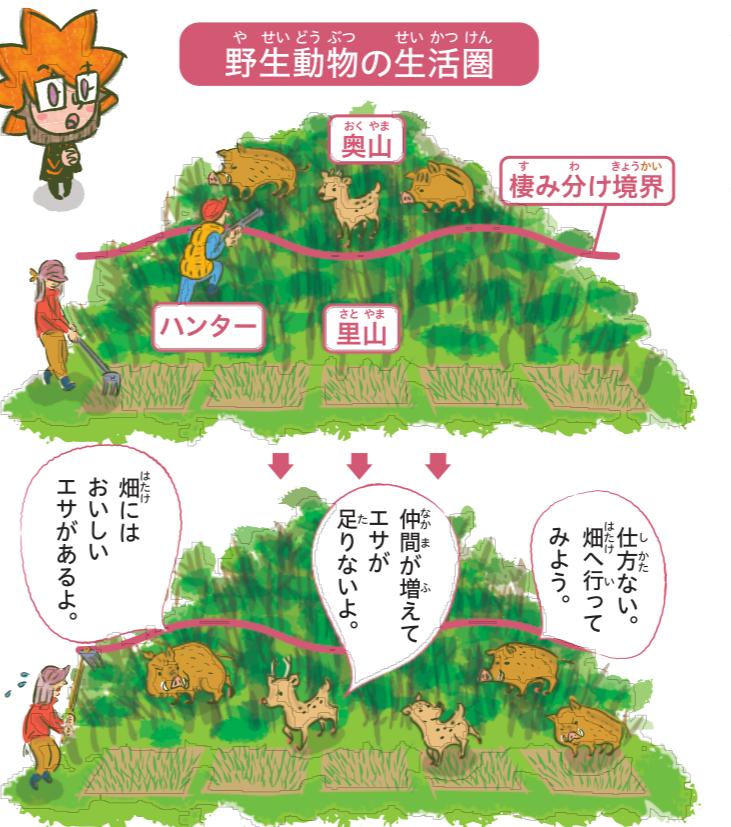


## 共生について

### 生活領域のバランス

わたしたちが住む高知県にとって、深刻な問題になっているのが、シカによる森林被害です。シカは1頭の雌がたくさんの子供を生む、とても繁殖力の高い生き物です。そして、地球温暖化による積雪量の減少で、餌不足や寒さで冬を越せずに死んでしまうことが減ったこと、狩猟規制やハンターの高齢化により捕獲数が減ったことなどが重なり、個体数は増える一方でした。高知県は2012年度より特定鳥獣保護管理計画を策定。影响力の適正頭数(※)を9,203頭と定め、段階的な取り組みを進めてきた結果、2014年を

ピークに減少傾向にあります。とはいっても、2018年時点では、高知県のシカの生息数は71、120頭。これは、適正頭数の約8倍の数です。  
※シカの生息環境として、森林面積1km<sup>2</sup>に対して10頭以下が適正とされています。



わたしたちにできること

ごみを捨てない食べ残しや商品価値のない農作物などを捨てると、森に住む動物が増えます。さ場とまちがえて集まっています。

さまざまな生物がいるおかげで、私たちは多くの恵みを受けていることができ、生活は成り立つています。一部の野生動物が、激的に増えたり減ったりすると生態系が乱れます。人間の都合だけで考えず、地球上の動物が共生できる環境を守らなければいけません。そのために今、何ができるでしょうか。わたしだちにできることを、みんなで考えてみましょう。



### 自然界のバランス

以前は、里山を利用していた人間の生活は、時代とともに変化しました。その結果、人間が入りしなくなった里山に、野生動物が山から下りてくるようになりました。また、中山間の住民が都市へ移動することで、人が住まなくなった地域が、野生動物にとって快適な隠れ場所になつたことになりました。

現在では、住宅地や市街地に迷い込むことがあるほど、人間と野生動物の生活領域のバランスが崩れています。野生動物と人間の生活領域の境界があやふやになってしまえば、お互いが接触する機会も増えます。今では、住宅地や市街地で、シカやイノシシなどの大型野生動物がどんどん分布域を広げています。